



杉並区立
浜田山小学校

学校だより 第542号
令和2年度 8・9月号

はまだやま

校長 伊勢 明子
副校長 森賀 慎一

主体的に〇〇に取り組む

校長 伊勢 明子

ご家庭のお子さんなら、〇〇に何が入りますか。願わくは「学習」としたいところですが。

予測困難な社会の変化（コロナ禍もそのものです。）に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会の創り手となる力、つまり「生きる力」を身に付けることが学習指導要領の趣旨です。育成を目指す資質・能力はア「何を理解しているか、何ができるか」（生きて働く「知識・技能」の習得）イ「理解していること・できることをどう使うか」（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）の3つの柱に整理されます。まさにこれからの時代に求められる（現代の企業社会にも通じます。）これらの資質・能力です。

その中でも、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、例えるなら生命を維持する血流の役割といえる「主体的に取り組む態度」の育成が重要と言えます。体の隅々まで酸素や栄養を運び、全てを活力あるものとする源となる態度です。学校生活だけでなく、様々な領域や分野で輝きを放つ子どもたちは、全て「主体的に取り組んだ、取り組んでいる」姿です。様々な世界で夢を実現した人々、一流になった人々は、小さい頃から「主体的に取り組む態度」を身に付けてきた人たちと言ってよいでしょう。

「主体的に」取り組むための大事な要素は、何でしょうか。それは、一つに「自分で決めること」そして「決めたことには、うまくいってもいなくても、自分で責任をとること」と考えます。「責任をとる」というのは、難しいことのようにですが、うまくいかない時にどうしたらいいか考え、最善の手を打つことが「責任をとる」ということです。大人が転ばぬ先の杖をしてしまったり、また、うまくいかない時に環境や人のせいにしたりしては、自分事として全力を注ぎこんだり、深く考えたりしないでしょ。これを成立させるには、いわば、大人が子どもに選択を任せる、大人側の覚悟の問題になると思います。

本校では、これからの主体的な学びに向かいます。校内研究において「自ら課題を発見し、解決できる児童」の育成を主題に「主体的に学習に取り組む」児童を育てていきたいと考えます。



今年度の目標「新しい学校生活様式を身に付けよう」

8・9月の生活目標「時間を大切にしよう」

1学期は「新しい学校生活様式を身に付けること」が目標であり、特に「あいてますか」を意識することに重点を置きました。

2学期は、その生活習慣に慣れ、自然に「あいてますか」ができることが目標になります。生活リズムを取り戻し、学校では時計を見て、チャイムに合わせて行動することを心がけるようにさせたいものです。同時に、5分休みは学習準備の時間、中休みや昼休みは安全に気を付けて過ごすように意識させていきます。生活リズムを整えて、熱中症や新型コロナウイルス感染症拡大予防とともに、学校生活を元気に過ごすことができるように積極的に声掛けを続けていきます。ご協力をよろしくお願いします。